

W-1

ワークショップ 1

鹿児島県甑島方言の音声と文法¹

The prosody and grammar of Koshikijima Japanese

企画・司会 窪菌晴夫

発表1 窪菌晴夫 「甑島方言のアクセント」

発表2 久保菌 愛 「甑島方言のニ格・バ格標示の形容詞」

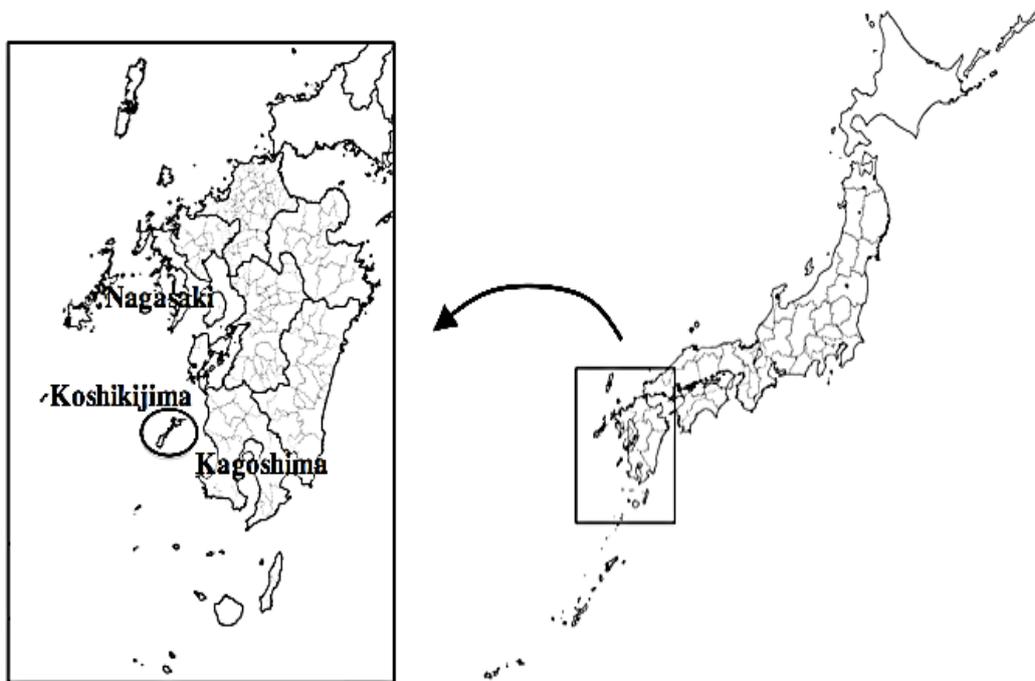
発表3 酒井雅史 「九州方言における甑島方言の敬語運用」

討論者 木部暢子

甑島方言

甑島(こしきじま)は鹿児島県本土の西 30~40 km の東シナ海に浮かぶ孤島であり(地図1)、上甑島・中甑島・下甑島の3つの島からなる(本ワークショップでは「甑島」と総称する)。本土の串木野新港からフェリーで1~3時間半のところにあるが、昔は船で5時間以上かかったそうである。今ではフェリーに加えて高速船も運航しているものの、フェリーと高速船あわせて1日4往復しかない。平成の大合併によって旧川内市などと合併され薩摩川内市の一部となったが、それ以前は鹿児島県薩摩郡〇〇村という地名であった。

[地図1]



〔地図 2〕



島には平地が少なく、入り江ごとに十余の集落が点在している（地図 2：窪菌他 2019 の松丸論文より引用）。道路が整備されるまでは、小舟が集落と集落を結ぶ主な移動手段であったらしい。集落は小さいもので十数戸、大きい集落（里、中甑、手打）でも数百戸という規模である。現在の島の人口は約 4,500 人であるが、本土から移り住んだ人も少なくなく、伝統的な方言を話しているのはその半数弱と推定される。島には昔も今も高校がないため、子供たちは中学校を卒業すると島を離れ、学校を卒業してから帰郷する率も高くない。若い世代への方言の伝承もほとんどなされておらず、現在の 50 歳前後が最後の伝統方言話者となる可能性が高い。典型的な危機方言である。

ワークショップの趣旨

本ワークショップは甑島方言の音声構造と文法構造を、現地での方言調査をもとに、通言語（方言）的視点と通時的視点を交えて考察するものである。

この方言については個々の研究者が音声もしくは文法について断片的な研究報告を行ってきたが、近年まで本格的な調査が行われていなかったこともあり体系的な記述は少ない（窪菌他 2015, 窪菌他 2019）。とりわけ音声と文法の両方を俯瞰する研究は皆無である。本ワークショップはその研究の間隙を埋めるために、音声と文法の中でもアクセント（窪菌）、形容詞（久保菌）、敬語（酒井）の 3 つのテーマに焦点を絞り、最新の調査結果を報告する。いずれの発表においても甑島方言の特徴を述べ、その特徴が対照言語学（比較方言学）や歴史言語学（日本語史）においてどのような意義を持っているかを考察する。これらの 3 つの発表を通して方言研究の新たな展開を模索し、また討論者（木部）およびフロアとの議論を通して新たな研究課題の発掘を試みる。

注

本ワークショップは国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」の支援を受けて企画されたものである。

参考文献

窪菌晴夫（監修）、森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦（編）（2015）『甑島里方言記述文法書』国立国語研究所報告書。

<https://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/9071/1/KU-1100-20150300-00.pdf#search=%27甑島里方言記述文法書%27>

窪菌晴夫・木部暢子・高木千恵（編）（2019）『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』くろしお出版。

窪菌晴夫他（2016）甑島方言アクセントデータベース。<http://koshikijima.ninjal.ac.jp/>